

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

34

第十幕 第二場

ローマへの道すがら

登場人物： イニゴ・デ・ロヨラ 巡礼者
道連れ之母娘
女城主

【語り】 門が固く閉ざされ、中に入れなかったイニゴ達3人は、城外の人の住まない教会で一夜を明かし、早朝また町の門に向かいます。

娘： 今日門を開けてくれるといいのですが。

母： 町に入れないと物乞いもできないし、食べることもままなりませんね。

イニゴ：二人ともお腹が空いてるでしょう？あの農家での夕食以後 昨日は何も食べ物を口にしていませんでしたからね。

娘： 焚火の周りで、よく食べましたね。怖い目には合いましたが、あのおかげで、昨日一日中歩けたんですね？

母： 母さんは あなたほどがつつ食べなかったので、おなかが空いて死にそうです。巡礼の方、あなたもそうですしょう？

イニゴ：私は空腹のせいばかりでなく、疲れがどっと出てきて、歩けなくなりました。

母： お顔の色がとても悪いですよ。ペスト患者と間違えられると、門があいても町に入れてくれないかもしれませんよ。

イニゴ：そんなに顔面蒼白ですか？バルセローナを出帆するとき病み上がりでしたから。でも、神が何とかしてくださるでしょう。心配はいりません。

母： あら、門が開いて、町人が大勢出てきましたよ。

娘： 私ちよっと見てきます。

イニゴ：若いですね。あんなに速く走って。

母： あの子と一緒に歩くと、息が切れます。 …… ああ、もう帰ってきました。

娘： この女城主がお着きになるそうです。ほかの人は、通行証がないと、町に入れないですよ。

イニゴ:直接城主に願い出て、入れてもらいましょう。神が助けてくださいます。

母： 騎馬に守られた、あの馬車がそうですね。

イニゴ:(馬車の前に進み出て、片膝をつき)Ma Donna,突然の無礼をお許してください。巡礼中の身であります、数日ご領地で托鉢し、休養を取らせていただけないでしょうか?疲れが出て、足が前に出なくなっていました。

女城主:大変お疲れのご様子ですね。いいですとも。この町の人々はみな親切ですから、あなたをお助けするでしょう。どうぞ、ゆっくり休んでから、巡礼をお続けください。神様の祝福がありますように。この町の人々のためにもお祈りくださいね。

イニゴ:有難うございます。助かります。

(3人とも町に入る)

イニゴ:それではここでお別れしましょう。私はこの町に2,3日留まります。あなた方はまだ元気なので先にローマに行ってください。私は少し休んで体力を回復してから、ローマに行きます。

母： あなたを置いてきぼりにはできませんわ。危ないところを助けていただきましたし、道連れにさせていただいてとても心強かったのですから。

娘： お願いですから、ローマに着くまで、私たちを守ってください。

イニゴ:力を回復するまで何日かかかるでしょう。あなたたちまで何日も足止めするわけにはいきません。(少し厳しい口調で)どうぞ先に行ってください。

母： あなたにそう言われると、逆らえません。お先に行かせていただきます。ローマでまたお会いできるかもしれません。

娘： 本当にお世話になりました。一昨晩は、あなたがおられなかったら 私たちどうなったか知れません。助けてくださり本当にありがとうございました。

イニゴ:どうぞ無事にローマに着けますように。神の護りと祝福を祈ります。

Adios!

母と娘:Adios!